

課題対応取組み報告書

名称	生野区新翼地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 7 月 1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ 複合的な課題を持つ家族支援 ）	
活動テーマ	複合的な課題をかかえる世帯への多面的な支援と他機関連携し地域資源を活用していく。 地域の実態把握とランチの周知活動を行う。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・医療にもつながっておらず、身寄りもないひとり暮らし高齢者（ライフラインも停止されていた）が、どうしていいかわからないまま水を買に行き、熱中症で倒れ警察に保護されたことで、発覚したケースがあった。水道局が水道を停止する前に区役所や地域包括支援センター（以下「包括」という）に問い合わせなどをしてくれれば、状態が悪化する前に支援することができたのではと感じ、色々な機関に啓発する必要性を感じた。 ・65歳以上の高齢者だけの課題ではなく、多種関係機関と連携を図り協働して支援しなければいけない複雑多様な世帯が増えてきた。	
対象	異南在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関	
地域特性	平野区と隣接する生野区の最南端の地域である。旧村時代の面影が残る古い家並みが残る一方、内環状線や地下鉄駅周辺では、マンションも増え、町会に加入しないひとり暮らし高齢者が他地域から移住されてくる方も増えており、関係性も希薄になっている。西側に東部市場と隣接し、業務スーパーC&Cエンドとサンディーがある。 コンビニエンスストアは2軒。銀行もなくなり、金融機関は郵便局1件だけである。 地下鉄やバスは通っているが、バスは1時間に1本しか走っておらず、区役所に行くにも乗り換えしなければならない。 オンデマンドバスも令和4年12月1日から開通したが、高齢者にはスマホでの予約が出来ず、利用が困難である。	
活動目標	地域住民、各関係機関の方たちとの連携を重視し、包括、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を行い、気軽に色々なことを相談していただける顔の見える関係づくりの構築を図る。 行政、他の専門職機関、との連携を深め、協働して複合的な課題解決に務める。	
活動内容 (具体的取組み)	・異南まちづくり協議会役員、地域福祉コーディネーター、民生児童委員、女性部役員、生野区社会福祉協議会（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に、戸別訪問を行い実態把握とランチの周知活動を行う。今回は町会に加入されている世帯だけではなく、社会福祉協議会の見守り相談室と協働して要援護者名簿も活用し、80歳以上のひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯に戸別訪問する。次年度の要援護者名簿作成につなぐことができた。 ・地域行事（お花見サロン、クリスマスサロン、ふれあいフェスタ、サンタ大作戦等）に企画から参加する。介護予防教室に参加し、コロナ感染予防のお手伝いをする。 ・いきみんお守りキーホルダー、緊急通報システムの設置などの手続きのお手伝いをする。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	民生児童委員、生野区社会福祉協議会（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に、戸別訪問を行ったことで、地域の実態把握が出来、地域住民にもランチを知ってもらうことが出来、相談につながっている。 地域行事（お花見サロン、ふれあいフェスタ、クリスマスサロン、サンタ大作戦等）企画から準備まで参加することで、地域役員、ゲストからもランチがなくてはならない存在になった。 また、社会福祉協議会の見守り相談室と協働して要援護者名簿も活用し、80歳以上のひとり暮らし高齢者の方、高齢者夫婦世帯に戸別訪問することが出来、次年度の要援護者名簿作成につなぐことができた。	
今後の課題	・高齢者だけではなく、その家族など、複雑な問題を抱えた方への支援の場合、一つ一つの問題解決にとっても時間がかかることと、解決途中で新たな問題が発生してしまうため、行政、他機関と連携を深め、協働して敏速に、問題解決に努めなければいけない。 ・地域役員、民生児童委員、社会福祉協議会の見守り相談室との関係を深め地域の実態把握に務める。 ・引き続き、包括、ランチの周知、啓発活動を行う。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月21日（金）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	地域への認知度が高く、相談につながりやすい関係づくりをしている。 高齢者を含む世帯全体への支援等、幅広く手厚い支援をしている。 新しく開いた会館において、地域行事への協力を通じて、積極的に介護予防活動に取り組んでいる。

課題対応取組み報告書

名称	阿倍野区昭和地域総合相談窓口				
提出日	令和	5	年	6	月 1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	早期発見・早期対応に向けた、幅広い世代に対する周知活動について Part.2	
地域ケア会議から 見えてきた課題	○コロナ禍において地域や家族等との関わりの希薄化により、課題を抱える高齢者の孤立化が進み、地域包括支援センター（以下「包括」という）や総合相談窓口（以下「ランチ」という）が対応する時には課題が重篤化している高齢者が多くみられ、更なる早期発見・早期対応が求められる。 ○地域住民に対し、認知症（精神疾患含む）についての正しい理解について、更なる周知が必要。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、生活の制限が長期間続いてしまったことで、活動量低下によるADLの低下が多くみられ、また心の病を抱える人も増えている。	
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関	
地域特性	南北に長い地域で、北部は新しいマンションが多く、中部は古からの住宅、南部はひとり暮らし向けのマンションや文化住宅が多い。 地域によって経済格差が大きい。南部と北部には地下鉄の駅、南東部にはJRの駅があるが、どちらも駅まで徒歩で移動が困難な高齢者が多く、公共交通機関の利便性が確保されていない。	
活動目標	①幅広い世代にランチの周知を行い、早期発見・早期対応に繋げる ②地域住民に対し、生活や健康など幅広い情報を発信する機会を作り、顔の見える関係作りを目指す ③地域住民に対し、認知症の理解促進を行い、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちづくりを目指す	
活動内容 (具体的取組み)	○把握の難しい要介護者を早期発見する為の非接触型の周知活動として、包括、地域福祉コーディネーターと共同で「高齢者の相談窓口＜長池版＞」リーフレットを独自で作成し、幅広い世代に向けて地域内全世帯（約5,000世帯）を対象にリーフレットの配布を行った。 ○介護予防・健康・認知症への正しい理解を深めるとともに、高齢者やその家族が生活に関連した身近な相談窓口を知ってもらう為に、包括と共同で「あべのすこやかガイド」を作成し、配布した。 ○介護・医療・福祉等に関する情報発信と相談窓口の周知の為に福祉広報誌「長池ふくしだより」を、包括、地域福祉コーディネーターと共同で作成し、地域の回覧板や個別訪問等で配布している。 ○包括、地域活動協議会と共同で認知症講演会「認知症になっても安心して住み続けられるまちづくり」を地域内2会場で開催し、認知症について正しい理解を深めるとともに、住民同士の「つながり」と「笑顔」の大切さについて学ぶ機会とした。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○「高齢者の相談窓口＜長池版＞」リーフレット配布後、大幅に相談件数が増加したわけではないが、リーフレットを見ての相談が実際にあり、相談窓口に結びつく機会を増やすということでは目的どおり実施できた。 ○「あべのすこやかガイド」については、百歳体操等の地域事業や個別訪問など、多くの地域住民に配布し、「わかりやすい」「使っているよ」と概ね評価を得ており、介護予防や認知症への理解に貢献している。 ○「長池ふくしだより」を通じて本人や家族より相談が入るようになり、顔の見える関係作りも構築できつつある。 ○認知症講演会は、2会場計39名とコロナ禍にも関わらず多くの住民が参加し、認知症への理解促進に繋がった。	
今後の課題	○包括ランチの周知活動については、これまでは非接触型を中心に行ってきたが、今後はアフターコロナを見据え、より積極的に地域に出向き、様々な支援関係機関や町会関係者等の協力を得ながら、地域行事などの地域住民の多く集まる場所で対面型の相談窓口の周知活動の実施と、顔の見える関係作りの構築を行う。 ○「あべのすこやかガイド」については、アンケートを実施し、効果検証を行い、次の事業に活かす。 ○地域への認知症の正しい理解については、まだまだ浸透ができていない。今後も認知症強化型地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム、地域関係機関とも連携し、幅広い世代に対し、認知症への理解促進に力を入れていきたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日 （ 月 ）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	地域福祉コーディネーターのいる会館とランチが目と鼻の先にあり、連携しやすい立地だ。 包括とのリーフレットと配布 による情報発信を通じて総合相談窓口の周知を行った結果、実際に相談に繋がっている。 コロナ禍の間に高齢者はますます外出しなくなっている中、目立つ材質を使ったリーフレットの配布は高齢者の印象に残りやすく、保管しておきたい気持ちにつながり、効果的だといえる。 相談につながっているという結果から、高齢者や住民自身のSelf-careの能力の向上や自助・互助にも繋がっているとわかる。 コロナ禍で高齢者の孤立化が進み、課題が重篤化しているという明確な事例を通して抽出された地域課題に基づき、早期相談につなげる取組みを展開しており、わかりやすい活動展開ができており、すべての専門性に該当する。

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区矢田東地域総合相談窓口					
提出日	2023	年	6	月	14	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	身近な相談窓口として、地域に根ざした活動を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①8050問題 ②認知症、知的障がい ③生活歴からくる支援拒否	
対象	地域関係者 (地域福祉サポーター、町会関係者、民生委員など)、専門職	
地域特性	●矢田東：地域活動の中止期間が長く、令和5年度より本格的に再開される。築年数の古い文化住宅などの建て替えが進むも、まだまだ古い物件も多く高齢で身寄りのない人の転入も多い。 ●矢田北：早い段階で積極的に地域活動の対策を講じながら再開している。会館を中心にした地域活動を女性部ボランティアを中心に行っている。	
活動目標	地域との関係を強化し地域の気づきを届けてもらうことで、支援困難ケースとなる前に早期相談につながる仕組み作りを行う。 支援困難となっている場合においても、地域のつながりを支援のきっかけとできるよう連携していく。 また専門職と連携していくなかで、必要に応じて地域と専門職とをつなぎチーム支援できる体制も構築する。	
活動内容 (具体的取組み)	●矢田東市営団地班長会議参加、介護予防教室を自治会と共催 ・毎月開催される団地班長会議に参加し、毎回時間をいただいて総合相談窓口(ランチ) (以下「ランチ」という)の周知や介護予防の啓発を行っている。 ・毎月第2土曜に開催している介護予防教室「つどいの広場」では、自治会役員と協働しつつ、参加住民とのつながりを深めながら相談等にも応じている。 ●地域の会館訪問 ・定期的に訪問し、地域福祉サポーター、地域関係者と相談ケース対応状況や地域活動についての話を通して関係性を強化している。 ●地域と専門職のつながり支援 ・地域ケア会議を開催する際には、専門職だけでなく地域関係者にも加わってもらい、連携して対応できる体制作りを行っている。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	●市営団地住民や役員からの相談を定期的に受けている。また気になるケースについても自治会と連携、情報提供を受けることが出来ている。 ●毎月開催されている矢田東のレトロシネマ会は、福祉に関する情報を提供する場として、その地域に所在する複数の福祉施設に関わってもらっているが、ランチがその橋渡し役を担っている。 ●地域住民からの虐待通報は年間を通してほとんどないが、地域役員より気になる家庭がある、虐待の疑いがあるのではないかととの相談を受け、虐待ケースとして対応している。	
今後の課題	ランチに直接新規相談が入る件数は年間30～40件程で推移しており、一定の周知活動の成果は出ていると考えられるが、個人的なつながりからの相談が多く、相談窓口としてのシステムの理解をどう広げていくかが課題。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 24 日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	積極的に地域に出て集いの場や地域の会館などで地域の役員と関わりを続けている。 地域の役員会等にも定期的に出席されていることで、地域からも直接多くの相談をしてもらえるなど認知されており、 真摯に対応している。今後支援を続けていってほしい。

課題対応取り組み報告書

名称	東住吉区白鷺地域総合相談窓口					
提出日	令和	5	年	6	月	15 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域支援者と高齢者の支援を協働して行う。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	アルコールや認知症などの重複課題によりセルフネグレクトの疑いや家族に対する支援の必要。 高齢化にともない筋力の低下について 地域の集い場のみではなく介護予防の運動の機会を増やす。	
対象	白鷺地域の高齢者、ボランティア、支援者。	
地域特性	古くからの住宅地で長年住んでおられる住民は地域との関係性も強い。 ボランティア活動、見守り活動が活発で地域の福祉活動の歴史も古い。 一方では町会に未加入のアパート等に居住のひとり暮らし高齢者など、地域とのつながりが希薄な方も多い。	
活動目標	集い場の参加者、ボランティアも高齢化が進んでおり、総合相談窓口の周知を行い、地域包括支援センター (以下包括) という) と連携し、早期相談につなげる。	
活動内容 (具体的取組み)	・包括、地域福祉サポーター、見守り相談室との地域情報共有会議を開催し、個別支援に関する情報共有や今後の支援について継続的に検討を行った。重複課題のあるケースについては、包括と地域ケア会議を開催し支援を行った。 包括と協働し地域の商店などに総合相談窓口の周知と協力依頼を行った。スーパーでの介護相談会、地域会館での認知症予防講演会、地域事業での介護保険の解説など包括とともに総合相談窓口の周知を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域事業等の参加者から体力の衰えを心配されて相談を受け、介護保険制度の説明や認定申請の支援を行い、認定申請24名、うち5名をリハビリにつなげた。 ②地域の郵便局を通して介護保険申請相談を受けた。前年からの郵便局への働きかけへの成果と考えられる。	
今後の課題	コロナ禍や高齢化などで外出を控えたり運動の機会が減るなどし、体力の低下が懸念される。 包括と協働し地域会館等で講演会・介護相談会を実施し、総合相談窓口の周知、介護保険情報の提供や認定申請を行い、リハビリにつなげるなど介護予防の取組みを強化していきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 24 日 (月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	既存の関係機関はもとより、商店や地域の別拠点においても、包括と連携し出張相談やミニ講座等を行い、総合相談窓口としての周知を地道に行っている。 介護保険サービス等のつながぎを中心として、圏域において高齢者の相談窓口としての役割を果たしている。	

課題対応取り組み報告書

名称	東住吉区矢田西総合相談窓口					
提出日	2023	年	6	月	14	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）			
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
	☐ その他（ ）				
活動テーマ	地域高齢者との顔の見える関係性の構築				
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らしの高齢者や老老世帯等は、様々な心機能の低下が原因となり、これまで出来ていたことが出来なくなり生活に不自由が生じている。 我慢できる限り我慢して過ごされていることで、支援者が関与するときには、課題の早期解決が難しくなっていることも多い。 このような状況を避けるには、何も起きていない早い時期から何らかの関りを得られていることが望ましい。				
対象	矢田西地域のひとり暮らし高齢者世帯、老老世帯ほか高リスク世帯				
地域特性	築50年を超える木造集合家屋があり、建物の老朽化と住人の高齢化が共に進んでいる。 無人化した家屋が散見できる。市営住宅も一部立て替えられているが、住人はそのまま移り住まれ、全体的に住人の高齢化は明らかである。 対照的に現代的な家屋の増加も認められ、入居される新しいファミリーの増加が就学児童の増加となっている。 取り壊された古い賃貸住宅の跡地は、現代的な家屋の建築が進められている。				
活動目標	総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）と地域の高齢者との間で顔の見える関係性を構築しその広がりを求める。				
活動内容 (具体的取組み)	地域の高齢者との顔の見える関係づくりを求め、地域の集いに参加する。 参加した地域の集いでは、参加者との挨拶や対話、相互交流に努める。各戸へのアウトリーチ活動では、パンフレット・リーフレットの配布から始め、直接対話につなげる。 パンフレット等の内容もインフォーマルなものも含め関心を持ち手に取って見てもらえるようなものとする。				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	熱中症で救急搬送され、そのまま入院となった姉と自宅に残った妹の老老世帯へ、長年の屋内ゴミの処分、冷房のない生活を続けているところへのエアコン設置、退院後の生活に向けての介護保険利用までの支援を行った。 同世帯からは、再び夏を迎えるにあたり、暑さ対策の相談を妹様から受けることができた。 高齢ながら非該当のまま暮らされてきたが、足の不調のことで相談があった方に、受診を勧めたことで受診につながり、入院を経て退院の支援に関れたときに「普段から挨拶が出来ていたことが役立った」との言葉を聞かれている。				
今後の課題	地域の高齢者との間で得られたこれまでの関係性を失わずに、新しく得られる高齢者との関係性を蓄積、関係性の広がりを求める。 相談終結者との関係性の継続を図る取り組みの必要がある。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 24 日（月）				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性				
評価できる項目（特性） についてのコメント	相談を待つのみではなく地域を廻り、つどいの場でランチの広報を行ったり、過去に関わった方への掘り起こしを積極的に行われている。 相談者への関わりを早期にし、顔の見える関係性の構築を行っており、今後も支援をお願いしたい。				
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。					

課題対応取組み報告書

名称	西成区天下茶屋総合相談窓口窓口					
提出日	2023	年	6	月	9	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の生活課題に対する早期アプローチ	
地域ケア会議から 見えてきた課題	様々な生活課題を抱えているひとり暮らし高齢者で生活保護を受けている方については、ケースワーカーや訪問員と連携し、早期に対応できるようにする。	
対象	地域住民及び地域の関係者、区役所のケースワーカー・訪問員	
地域特性	毎年、古い集合住宅が取り壊され、新築の戸建や賃貸マンションが増えている。 ひとり暮らしで生活保護を受給している高齢者が多い。	
活動目標	区役所のケースワーカーとの連携を強化することで、ひとり暮らし高齢者の生活課題に早期に対応する。	
活動内容 (具体的取組み)	総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の職員が年度途中で交代したこともあり、改めて天下茶屋地域を担当している訪問員に挨拶・自己紹介を行った。 気になることがあれば何でも相談を頂けるよう話をし、実際に相談や訪問依頼があった場合は、迅速な対応を心掛けた。 また、随時ケースワーカーに対象者の経過報告を行った。 その他、ランチと接点のある大家さんにも、気になる方がいれば、相談対応すると話をさせて頂いた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	区役所の訪問員から相談を頂き、支援に繋げることができた。 また件数は1件ではあったが、地域の大家さんからの相談にも対応することができた。 今後も顔の見える関係を大事にしながら、高齢者の生活問題に対応していきたい。	
今後の課題	生活保護を受給されていれば、ケースワーカーや訪問員から相談を受けることは可能であるが、地域や区役所と接点がない方は、早期発見・早期対応が難しい。 ランチの周知活動を基本に生活問題を抱えた高齢者の早期発見・早期対応に努めたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	ひとり暮らしで生活保護を受給している高齢者が多いことから、ケースワーカーや大家と顔の見える関係を築くことは大切である。 今後、地域住民をはじめ、地域の大家や民生委員等、高齢者の身近な関係機関と顔の見える関係性が持てるよう、ランチの周知がされ早期発見・早期支援へつながるよう期待します。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区山王地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 12 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	体験参加型の取組みを通じて地域住民がつながり、交流できる機会を持つ	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域とのつながりが少なく、キーパーソンがいない。支援・介入の拒否。 ・事態を把握したときには課題が重篤化している。⇒早期発見・介入が課題。生活保護ケースワーカーや民生委員等連携が不可欠。 ・ライフラインの停止・家賃滞納によりロックアウト⇒安心して暮らせる環境の確保が必要 ・介護のつなぎ以前に負債や介護保険料、公共料金滞納があり、支援が難航する。	
対象	地域関係者、山王・飛田地域の地域住民	
地域特性	昔ながらの建物・風景や長年居住されている住民同士の近所付き合いも残っている。 その一方で集合住宅に住むひとり暮らし高齢者世帯も多く、生活保護受給率も高い。 身寄りがなく、繋がりが希薄な住民もみられる。 昨今は高齢者人口の減少、空き家の増加や新旧建築物の建て替わりや住民の流入出など景観の様相も変化している。	
活動目標	・地域の相談場所、窓口の役割や位置づけの理解につながる ・住民が自らの困りごとや地域課題について地域として一緒に考えていく交流の機会となる。	
活動内容 (具体的取組み)	◎「山王ポッチャクラブ」 毎月第1・3水曜14：30～ 山王集会所 参加人数：地域住民8～10名程度。 令和4年4月から山王地域活動協議会の後方支援として地域包括支援センター（以下「包括」という）・区社会福祉協議会と共催のもと「山王ポッチャクラブ」活動開始。百歳体操後の参加者が集い、対戦。 ◎「飛田ポッチャ交流会」 令和4年9月22日 飛田ふれあい会館 参加人数：40名。 西成区老人福祉センターのアウトリーチ事業で「飛田ポッチャ交流会」が行われ、事前の準備や開催に協力した。 ◎「山王車いす体験会」 令和5年3月11日（土）14：00～ 参加人数：35名 今年度より地域のふれあい喫茶において「出張相談窓口」を設置。（東部包括・区社会福祉協議会・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）合同）地域関係者や住民と顔が見える形で相談や周知を図っている。 その中で「急遽車いすを借りたいときに近隣で借りられる場所が分からず困った。」という相談をきっかけに「車いす体験会」企画を立案。包括・ランチ・生活支援コーディネーターで何度も検討を重ね、山王地域活動協議会の会議で主旨を伝えた。単発のイベントや講談形式ではなく、地域住民ひとりひとりが当事者意識として体感してもらうこと、次につなげていくこと、楽しみながら学習できる形で学んでもらう工夫。子どもから高齢者の多世代交流を通じて、実際車いすを自走し、車いすの操作や目線、当事者意識を持ってもらうことを狙いとした。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	◎「山王ポッチャクラブ」 当初は声かけをしても3～5人程度であったが、回を重ねるごとに定着し現在では8～10名率先して準備を手伝ってくれる方もおり、楽しみにされている。対戦も盛り上がりを見せている。 ◎飛田ポッチャ交流会（アウトリーチ事業協力）参加者の中でポッチャに興味を持ち、後日審判員講座を受講した方もおられる。 地域関係者からの発案にて再び飛田連合ポッチャ大会の開催へ繋がった。 「東部包括フリースクール」でも毎月ポッチャを開催しており、認知度が広がっている。 ◎「山王車いす体験会」 当日は児童委員、民生委員、青少年指導員、地域活動協議会・高齢福祉担当に協力していただいた。 多世代交流にも繋がり、高齢者と子どもがペアになって体験する場面もみられた。 終了後アンケートを回収し「体験するのは楽しい」「車いすの操作が難しかった」「普段できないのでよかった」等満足度が高く、好評であった。	

今後の課題	◎「山王ポッチャクラブ」 ポッチャは西成区内でも地域でポッチャクラブの発足や対抗試合など盛り上がりを見せている。今後は地区対抗や世代間など様々な交流のツールとして場が広がっていく試みに向けて連携を行ってきたい。 また、地域と繋がるきっかけや居場所づくりとして、閉じこもり傾向や地域との関わりが希薄な地域住民への声かけも継続していく。 ◎「車椅子体験会」 今後、令和5年度も地域を幅広く活用し多様なテーマを設定しシリーズ化していく予定。体験型の学習形式として回を重ねていくことで定着していくと考えている。地域住民の地域課題について高齢者だけでなく様々な年代、背景を併せ持つ山王地域住民が参加側から、ゆくゆくは協力へと意識変化に繋がっていかれたら考える。
-------	--

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ふれあい喫茶で「出張相談窓口」を設置し、地域と顔の見える関係性が作れている。 地域からの相談をきっかけに「車いす体験会」を企画し、多世代交流を通じて当事者意識を持ってもらえたことは評価できる。 今後も、高齢者だけでなく様々な世代を巻き込んで地域の課題を共有し地域活動に参画してもらえることを期待します。